

# 京 図

きょうと

京都市図書館情報誌

# ものがたり

関西から



## 本で広がる世界 本でふくらむ夢



「古典の日」に関連した展示（中央図書館）

特集

古事記編纂  
1300年

OPEN YOUR BOOK AT PAGE 2,3 PLEASE

## あなたの好奇心に答える

目次

- 2 3 特集 古事記編纂1300年
- 4 5 特集 本で出会う京都
- 6 図書館の特色紹介 山科図書館
- 7 図書館小特集 知って納得！ 便利な図書館！ 「パスファインダー」
- 8 利用者の声 私の読書スタイル
- 8 編集後記

古典に抱かれて



11月 古典の日

今年、「古典の日に関する法律」が可決成立し  
11月1日が**古典の日**と定められました。  
いにしへの日本人の心に思いを馳せ、古典を後世に伝えていきましょう。

古典に抱かれて



11月 古典の日

# 古事記 編纂一三〇〇年

『古事記』は『日本書紀』とともに、天皇の命令により日本で最初につくられた歴史書です。ただ、歴史書とはいっても天地創造から書かれていたなど、聖書と同じ形をしており、神々や天皇の物語といった性格が強いのが特徴です。種田阿礼が習い覚えていた話を太安万侶が書き記したもので、七十二年に編纂されました。

折しも今年、古事記編纂一三〇〇年目の年。この機会に『古事記』の世界に触れてみませんか？

## あのおはなしも古事記が原典？ 日本の神話絵本あれこれ

子どもの頃からなにげなく慣れ親しんできた物語の中には『古事記』が原典のものがたくさんあります。絵本と原典を見くらべてみてはいかがでしょうか？



『にほんたんじょう』  
岸田衞子／文 渡辺学／絵  
岩崎書店

男神イザナギと女神イザナミは空と地面の橋の上から、どろどろの地面に矛を降ろしてかきませ、島をつくります。こうして国が生まれた後、たくさんの神様が誕生します。しかし、火の神様が生まれた時、イザナミはやけどをして死んでしまいます。イザナギは黄泉の国へイザナミに会いに行きます。



『あまのいわと』日本の神話 第二巻  
舟崎克彦／文 赤羽末吉／絵  
あかね書房

イザナギは、アマテラスとツクヨミとスサノオに高天の原と夜の国と海上をそれぞれ治めさせますが、末の子のスサノオは荒くれ者で、姉のアマテラスを困らせ、暴れまわります。怒ったアマテラスは天の岩戸という洞窟に身を隠してしまい、世の中は真っ暗闇になります。困った高天の原の神々達は相談してある策を考え出します。



『やまたのおろち』  
羽仁進／文 赤羽末吉／絵  
岩崎書店

スサノオは、高天の原から追い出され、出雲に降ります。そこで、ヤマタノオロチという頭が八つ、尾も八つある大きな蛇を退治して、クシナダヒメを救い、結婚します。ヤマタノオロチの尾の中には大きな刀がありました。これが、のちの三種の神器の一つ、草薙剣となります。



『いなばの白ウサギ』  
谷真介／文 赤坂三好／絵  
佼成出版社

スサノオとクシナダヒメとの間に生まれた子どもの六代目の子孫にオオクニヌシがいます。ある時、因幡の国でサメをだまして海を渡った兎が、サメに皮を剥がれて痛がっていたところを、オオクニヌシが助けてくれます。



『おおくにぬしのぼうけん』  
福永武彦／文 片岡球子／絵  
岩崎書店

オオクニヌシは、八十人の兄弟の神々と因幡の国へヤカミヒメに求婚に行きます。ヤカミヒメがオオクニヌシを相手に選んだため、兄弟の神々は嫉妬して、オオクニヌシの命を狙います。オオクニヌシは、兄達から逃れるため、スサノオの治める根の国へ行き、スセリヒメと出会うお互いの恋に落ちます。しかしスサノオはオオクニヌシに、次々と厳しい試練を与えます。スセリヒメの助けでオオクニヌシは試練を克服し、地上の王としての力を手に入れます。



『海幸彦山幸彦』  
西本鶏介／文 藤川秀之／絵  
ポプラ社

海のさかなをとる兄の海幸彦と山のけものをとる弟の山幸彦は、ある日仕事をとりかえてみます。ところが、山幸彦は兄のつり針を海になくしてしまいます。兄はどうしても許さず、山幸彦は海の神の宮殿までつり針をさがしに行くことになったのです。

## 『古事記』に書かれた地名の由来

古事記には、あちこちに、神話と関連して地名の由来が記されており、興味深いものがあります。そのいくつかを紹介しましょう。

**須賀**（鳥根県大東町須賀）スサノオがヤマタノオロチを退治して、クシナダヒメとともに住むことにした場所を出雲の須賀という所ですが、それはスサノオが、「この土地に来て、心がすがすがしくなった」と言ったことによるものです。

**焼津**（静岡県焼津市）ヤマタケルは、クマソ退治で有名な、大和の拡大に貢献した古代史上最大の英雄ですが、その強さ故に父の天皇に疎まれた悲劇の皇子でもあります。西征から戻るやいなや、東の討伐を命じられたヤマタケルは、国造に野原に誘いこまれ、火を放たれます。スサノオがヤマタノオロチの尾から見つけた草薙の剣で草をなぎ払い、反対側に火を放って国造を打ち倒します。以来この地は焼津とよばれています。

**三重**（三重県四日市市采女町）ヤマタケルが都の手前で力尽き、当芸野に至ると足が腫れ、杖なしには歩けなくなり、伊勢の三重村ではさらに足が折れ曲がり、「吾が足は三重に勾れるが如くして、甚だ疲れたり」と言ったので、その地を三重と呼ぶようになりました。

## 不思議？世界各地の古事記の類話

スサノオのオロチ退治物語のように、英雄が蛇神や怪物を退治して、犠牲になろうとしていた乙女を救い結婚するという話は世界中にみられます。有名な一例にはギリシア神話の英雄ペルセウスが、海の怪物からアンドロメダ女王を救い出して結婚した話があります。

また、オオクニヌシは、スセリヒメと恋に落ち、スサノオの試練を受けることになりましたが、英雄が姫と結ばれるためにその姫の父から、難題を与えられ、それを相手の姫の助けによってクリアするというモチーフは、中国の羽衣伝説や、ロシアの昔話のかしいワシリーサの話と類似しています。

また、因幡の白ウサギ物語のように、動物（ネズミジカや鹿、ジャックアル、サル）がサメやワニやクジラをだまして海を渡るといふモチーフも世界中に広く伝わっている話のようです。世界のあるところに、『古事記』に記された日本の神話と類似した話があるというのも、興味深いと思いませんか？

## 『古事記』を題材にした作品



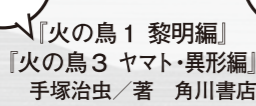
『玉井』海幸彦と山幸彦  
片山清司／文 白石皓大／絵  
BL出版

能『玉井』は『古事記』にある海幸彦・山幸彦を題材にしたお話で室町時代に書かれました。タイヤヒラメの舞があるなど、ファンタジックな演目です。『玉井』は、海幸彦のつり針を見つけ出し、竜宮から帰るところで終わっています。意地悪な兄をこらしめ王権を確立するお話は、近年復曲された『鶴羽』の中に取り入れられています。



『白鳥異伝』  
荻原規子／著  
徳間書店

遠子と小俱那は双子のように育ちました。しかし小俱那は大蛇の剣の主となり、勾玉を守る遠子の郷を滅ぼしてしまいました。ヤマタケル伝説を下敷きにしたファンタジー。『空色勾玉』に続く勾玉三部作の第二作目です。



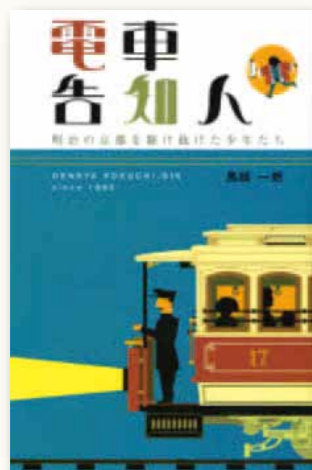
『火の鳥1 黎明編』  
『火の鳥3 ヤマト・異形編』  
手塚治虫／著 角川書店

黎明編は、クマソの話がモチーフになっています。古代のヤマタイ国とクマソの対立の中で教養な運命をたどる姉弟、防人の猿田彦、そして火の鳥を狙う男たちのドラマを描いています。ヤマト編は、クマソ国王タケルの妹と宿敵ヤマト国の王子オグナの間芽生える愛と葛藤の物語です。

## 漫画

### 【参考文献】

- 『古事記』新編日本古典文学全集1 小学館
- 『地図とあらずして読む古事記と日本書紀』坂本勝／監修 青春出版社
- 『絵で見たのしい古典①古事記・風土記』学習研究社
- 『ロシアの昔話』内田莉紗子／編・訳 福音館書店
- 『日本神話入門』阪下圭八／著 岩波書店
- 『天女の里がえり』君島久子／文 岩波書店
- 『イナバノシロウサギの総合研究』石破洋／著 牧野出版
- 『玉井』片山清司／文 BL出版
- 『世界動物神話』篠田知和基／著 八坂書房
- 『キリストと大國主』中西進／著 文藝春秋



### 『電車告知人』

鳥越一朗著 ユニプラン

虚空蔵さんに線香を上げられたことで、アンナは一応満足した風であった。法輪寺の境内の一角には展望所がしつらえてあり、そこから初冬の澄んだ空気を通して、比叡山から南に延びる東山連峰が一望に眺められた。(P166)

百年前の京都市内を走る市電。その市電が来ることを知らせる電車告知人の仕事に就いた敬二郎が、出会ったロシアの少女アンナと嵐山観光に出かけた一場面です。

### 『思い出探偵』 鍋木蓮著 PHP 研究所

嵐電は市内の車道を走り、昔の「市電」を彷彿とさせた。(中略)  
住居や店、寺の裏庭を縫っていくようで、手を伸ばせば生け垣に触れそうなところを電車が走る。程なく到着した嵐山駅は、観光客が大勢訪れる駅にしては小さく、そこがまた魅力で、若い女性に「可愛い」という歓声を上げさせていた。(P34)



わずかな手がかりから、人や物を探す「思い出探偵社」の仕事。小さなガラス瓶を拾って届けてくれた人の情報を探しに嵐電に乗って、清凉寺へ調べに行く場面です。

### 『千両花嫁 とびきり屋見立て帖』

山本兼一著 文藝春秋

八分に咲いた鴨川堤のしだれ桜が、夜明けの風にはらりと舞った。空は、淡いはなだ色に明け初めたが、東山の峰々はまだ藍色をのこしている。(P6)

京で三本の指にかぞえられる名代の茶道具商の娘ゆずは、奉公人真之介と駆け落ちの末結ばれ、京三条に道具屋(いわゆる古美術商)「とびきり屋」を始めます。美術品をめくり様々な出来事が起こりますが、その度に目ききのゆずの力量と、夫真之介への一途な思いが危機を救います。場面は三条大橋のたもとです。



# 本で出会う京都

京都が舞台になった作品はたくさんありますね。「古都」(川端康成著)や「金閣寺」(三島由紀夫著)などの有名な文学作品から、古くは「源氏物語」など。今回は推理小説、恋愛小説、歴史小説、エッセイなどから比較的新しい(平成になって出版された)5冊をご紹介します。京都散策が一味違ってくるかもしれません。

### 番外アチ情報

### 京都市図書館が登場する本が!

『Fの悲劇』(岸田るり子著 徳間書店)には、京都市中央図書館が、また、『崇徳伝説殺人事件』(内田康夫著 角川書店)には、京都市中央図書館の並びにある京都アスニーが登場します。どちらも京都が舞台のミステリーです。興味のある方は、是非探してみてください。

### 『エンキョリレンアイ』 小手鞠るい著 新潮文庫刊

「はるになったら」と、あのひとは声を出して、タイトルを読み上げた。「こんにちは」と、最初に声をかけてくれた時と同じ、朗らかな響き。「はるになったら」と、わたしもあとを追うようにして、言った。(P14)

22歳の誕生日、書店アルバイトの桜木花音は、アメリカ留学を翌日に控えた井上海晴と運命の恋に落ちます。二人の出会いと再会の場所が京都駅八条口のアバンティブックセンターと思われま。また、そこで主人公の桜木花音が井上海晴にすすめた絵本『はるになったら』(シャーロット・ゾロトゥ文 ガール・ウィリアムズ 絵 徳間書店)は、京都市図書館でも所蔵しています。



### 『少年Mのイムジン河』 松山猛著 木楽舎

そのときでした。どこかの教室から、あの美しい歌が流れてきたのは。(中略) そのどこかものがないメロディーは、ぼくのたましいの純情を射ぬいてしまいました。(P27~28)

昭和20年代、M少年の育った京都東山の泉涌寺、東福寺界限には、朝鮮半島から来た人をはじめ、実に様々な文化を持つ人が暮らしていました。彼が中学生の時、銀閣寺近くの朝鮮中高級学校に交流サッカー試合を申し込みに行き、たまたま耳にした歌が「イムジン河」でした。

映画「パッチギ!」の原案でもあります。映画「パッチギ!」のDVDは、京都市図書館でも所蔵しています。



DVD「パッチギ!」  
監督: 井筒和幸  
発売・販売元(株)ハビネット  
©2004「パッチギ!」製作委員会

# スタートから60年！

昭和 27 年 6 月に『京都市社会教育会館山科分館』としてスタートした京都市で2番目の古さを誇る図書館です。平成 5 年に現在の場所に新築移転しました。合同福祉センターの 4 階にあり、景色の良いバルコニーにぐるりと囲まれ、広い畳の児童コーナーは赤ちゃん連れのお母さんや子どもたちに喜んでいただいています。地域に根ざし、地域の多世代のお役に立てる図書館づくりを目指します。



## 学校への支援

団体貸出、中学生の小学生への読み聞かせ指導支援など地域の小中学校と連携しています。(大宅中から大宅小への読み聞かせ)



## よんでよんで赤ちゃんの会

毎月第1月曜に実施し、30～50組の親子連れで大賑わい。すべて地域中心のボランティアさんが担当してくださっています。60周年記念としてベビーマッサージも行いました。



## お楽しみ会

毎月第4土曜に実施。京都橘大学のお兄さん、お姉さんがお手伝いをしてくれて、地元の小学生の作った山科かるたも行っていきます。



## 僕の名前はぶっくろう！

山科図書館 60 周年を記念して生まれました。なんと小中学生や大人の方々 1749 人もが僕の名前を考えてくれたよ！デザインしてくれたのはインターシップの学生さんと山科図書館の皆さん。山科区のきずな支援事業の協力もいただき、僕の載ってるしおりやクリアファイルもできました。これをきっかけに多くの皆さんが図書館を知ってくれて、来てくれて、楽しんでくれたらとってもうれしいなあ。それでは山科図書館の取組を紹介しま～す！

## 地下鉄東西線山科駅 掲示板でのお知らせ

展示・イベント情報・訪問者の声など楽しくアピールしています。



## 地域文化を支える図書館として

郷土史家の方々とネットワークを作り、地域ならではの歴史、文化等の情報収集をし、地域文化の拠点づくりを目指しています。京都コーナーの中に、『山科コーナー』を設置予定です。6、7月には郷土史家の方々に子ども向けのお話をいただき、『山科区のたからもの』という詳細な地図や『山科100万年の営み』と題した年表他を展示しました。10月には赤穂市立図書館とのコラボレーションで『忠臣蔵・赤穂義士コーナー』、『山科図書館60年のあゆみ』を展示しました。また、11月1日(木)から『山科を知ろう』というテーマで講演会を6回シリーズで実施します。(隔月、17時～18時)



山科区のたからもの



山科100万年の営み



山科図書館60年のあゆみ



忠臣蔵・赤穂義士コーナー



# 知って納得！ 便利な図書館！



PATHFINDER

図書館では、本、雑誌、視聴覚資料などの閲覧や貸出の他にもいろいろなサービスを行っています。

その一つにレファレンスサービス（調べもののお手伝い）があります。

図書館で調べものをする時の道具として、たとえば辞典、図鑑、データベースなどがありますが、今回は『パスファインダー』をご紹介します。

## パスファインダーって何？

パスファインダーとは、英語の path（小道）と finder（見つける人）を組合せてできた言葉で、元々の意味としては、「探検者」、「草分け」という訳があてられています。図書館の用語としては「道しるべ」という意味合いで使われています。

『最新図書館用語大辞典』図書館用語辞典編集委員会／著（柏書房 2004年）では、「特定のトピックや主題に関する資料や情報を収集する際に図書館が提供できる関連資料の探索法を一覧できるリーフレットのこと」と定義されています。

ここで重要なのは、ブックリストなどとは違い最終的に利用

者自身が、自ら求める資料を見つけ出せるように、順を追って紹介しているところです。まさに目的の資料にたどりつくための、＜道筋＞を示しているのです。

全国の公共図書館でも図書館のホームページ上にパスファインダーを作成しているところや、直接、手に取ってご覧いただけるようにリーフレットを作成して置いているところもあります。

京都市中央図書館では、リーフレットを作成しており、京都の神社・寺院、パソコン・インターネット、日本の古典文学などの主題をとりあげています。

## パスファインダーを活用してみよう

では実際、中央図書館で作成した《【京都の神社・寺院】に関する資料の探し方》というパスファインダーを活用して、調べものをしてみましょう。

ここでは「京都の鞍馬の火祭」について調べることにします。パスファインダーに書かれている流れに沿って、調べてみましょう。

### ①参考図書を見てみましょう！

まず、京都の事柄がたくさん載っている『京都大事典』（淡交社）を見ると、〔鞍馬寺〕の項目に「鎮守由岐神社の例祭（10月22日）も鞍馬火祭として有名。」と書かれており、また、別の頁には〔鞍馬の火祭〕という項目があり、そこには、さらに詳しく解説が載っていました。

### ③図書の本棚で探しましょう！

パスファインダーを参考にして本のラベルや OPAC で印刷したレシートを手がかりに本棚からお求めの本を見つけることができます。

京都関係の本棚から「古寺巡礼京都（新版）14巻」（淡交社）に掲載されている「火祭」の写真と解説を見つことができました。

### ②検索機を使ってみましょう！

次に OPAC（図書検索機）で検索してみましょう。ここでは「くらま」というキーワードを入力して探してみます。何冊か資料があがってきました。例えばその中の1冊、『鞍馬山歳時記』信楽香雲／著に、〔鞍馬の火祭 恒例 12月22日の夜儀〕の章を見つけることができました。パスファインダーにはいくつかのキーワードを記載していますので参考にしてください。

### ④新聞・雑誌を調べてみましょう！

雑誌『京都』（白川書院）の2010年10月号に〔10月の祭り・鞍馬の火祭〕という項目を見つけることができました。

雑誌や新聞の記事などを探したい場合は、職員にご相談ください。

いかがでしたか。何か調べものをしたい時には、ぜひパスファインダーを活用してみてください。きっと、お役に立つと思います。また、調べ方が分からないときや、資料が見つからない場合は、図書館職員に相談してみてください。皆様の調べもののお手伝いをさせていただきます。

◆ 伏見区 加藤 直子さん (主婦)



そろそろ昔話の世界が気になりだした3才の息子。先日は色々な出版社の「うらしまたろう」を図書館で何冊も読み比べ、我が家の雰囲気合う一冊を選び、読んでやりました。

いつも側にお気に入りの本がある環境をと思うと、最後は購入することになるのですが、書店では何冊も比較することが不可能ですよね。でも図書館ではそれができる。予約して取り寄せてもらうこともあります。少しでも良質のものに出会わせてやりたい。私にとって図書館は、絵本選びの強い味方です。

テーマ

「私の読書スタイル」



◆ 東山区 神野 亜衣さん (学生)



ジャンルは小説。読む場所は電車の中。長時間、電車に乗り込むことが多いので、鞆の中には、いつも何かの本が入っています。

気に入った作家さんの本は、短期間で続けて読みたいため、一度に沢山借りられる図書館を利用して。一冊気に入れば、その作家さんの全作品を読み尽くしたくなる性分。デビュー作から最新作を調べ、こつこつ順番に読んでいくのが至福の時間です。

読後は、執筆年を見てその年、自分は何をしていたらと、思い返したりもします。

◆ 奈良市 武田 瑠衣子さん (学生)



本を読むなら、非現実的な話の方がいい。勉強とも、私生活とも隔てられたどこかへ連れて行ってくれる、そんな物語がいい。

月曜日の朝の憂うつな電車の中、行き詰まったレポートの傍ら、一向に姿の見えない友人との待合せ場所、あえてこういう場面で本を開く。そのあいだだけ「今」を忘れる。独特な興奮や感動にしばらく身をあずけてしまう。そうすれば戻ってきたとき、なんだか心の余裕が増えている、そんな気がするから。

これが「私の読書スタイル」。

◆ 伏見区 川瀬 健三さん (無職)



いつでも本を読めるように常時一冊は手元に置いています。電車やバスで出掛ける時は必ず持って行き車内で読みます。家にいる時はゆったりとした時間が持てた時、ページをめくります。

居間でソファーに座って読むのがいつものパターンです。返却日までの2週間を目標に読みますが、ときには時間を忘れて早く読んでしまう場合もあります。サスペンスや人情物語がほとんどですが、利用させていただき大変嬉しく感謝しております。

◆ 伏見区 本多 明美さん (主婦)



大抵2～3冊を手許に置いて日常のスキマにつまみ食いの様に読んでいます。お風呂に浸かりながら、歯を磨きながら・・・濡れても良い文庫本や短く読めるエッセイなど使い分けて。重すぎない単行本は一人歩きの時に電車やカフェで。

けれど最近本だけに向き合う時間を意識的に作るようにしてみました。「ながら読書」とは違う高揚感。夕食や宿題も忘れて本に夢中になった子どもの頃のドキドキがよみがえります。

京図ものがたり vol.30

発行  
平成24年11月

編集・発行

(公財)京都市生涯学習振興財団・京都市中央図書館  
〒604-8401 京都市中京区聚楽廻松下町9-2  
TEL 075-802-3133  
<http://www.kyotocitylib.jp/>  
<http://www.kyotocitylib.jp/i/>



子どもを共に育む  
京都市民憲章



社会のあらゆる場で実践し、  
行動の輪を広げよう!

編集◆集◆後◆記

この号ではパスファインダーを紹介しました。レファレンスについては、ジャンルも様々で、日々、反省、勉強の繰り返しです。でも、それだけに、お求めの資料をスバリ見つけられた時の、喜びもひとしおです。(T)

『古事記』を調べていて、八百万の神々が、人間と同じように、愛したり、憎んだり、嫉妬したり、知恵で窮地を切り抜けたりしている姿にワクワクしました。私達の住んでいる日本の国に、こんなにも豊かな物語が語り伝えられていることに感動。子どもが頃聞いて、知っていたつもりのお話の中に、『古事記』が原典だったことを知らなかったお話もありました。(S)

新しい人が言っていました。「京都に住むことが憧れだった」。その人は地方から進学を機に京都に住み、今でもずっと住み続けています。そんな京都を本の中で探しました。京都に住んでいることをちょっとだけ誇りに思いつつ、本の中の京都と同じ景色を見に出かけませんか。ちょうど今キンモクセイのいい香りが漂っています。(H)